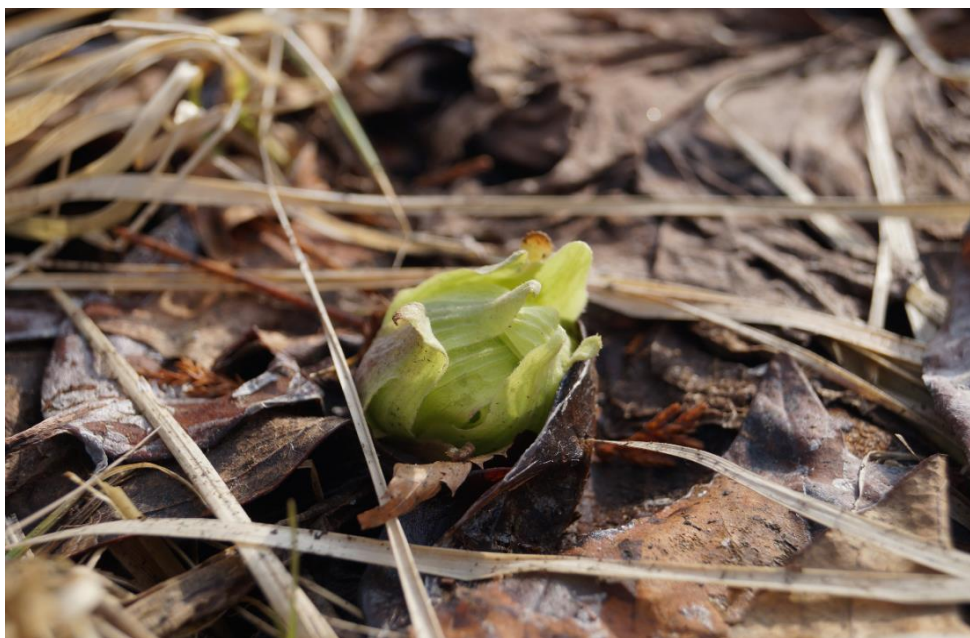




ふきのとう（落の臺）

撮影日：令和3年2月14日 秋田市民家敷地

目次

生産現場情報：豪雪ニモマケヌ県南の伝統野菜「ふくたち」

～JAうご“ひばり野ふくたち”～・・・・・・・・・・ P 2～3

営農支援情報：水稻種子予措のポイント・・・・・・・・・・ P 4～5

ご紹介：JA農業機械担当者を表彰～農家訪問活動を積極的に展開～・・・・・・・・ P 6

お知らせ：①今冬の雪害からの復旧に向けて・・・・・・・・・・ P 7

②育苗期のいもち病防除・・・・・・・・・・ P 8～9

③JAグループがおすすめするドローン散布対応水稻除草剤・・・・・・・・ P 10～11

豪雪ニモマケヌ県南の伝統野菜「ふくたち」

～ＪＡうご“ひばり野ふくたち”～

1. 「ふくたち」とは

皆さんは秋田の伝統的な野菜「ふくたち」（もしくは「ふくだち」）をご存じだろうか。

秋に種をまき、越冬させたハクサイがとう立ちしてきたところを収穫したもので、元の品種は一般的なハクサイです。

「ふくたち」は県南部が発祥地とされ、もともとはハクサイとして良い状態に育たなかったものを収穫せずに畑に残して冬を越し、春になってとう立ちし始めたものを食べたところ、とても美味しかったことから県南地域で広まったのが始まりと言われています。



2. 「ふくたち」の産地

「ふくたち」は県南地域の家々で春先の貴重な自給用野菜として食されてきました。

あまり世に出回っていなかった「ふくたち」を特産にしようと、初めて市場に出荷したのが羽後町新成地区の農家が集まった新成園芸組合です。昭和57（1982）年に県南青果卸売市場への出荷が始まって徐々に認知度が高まり、平成26（2014）年にはＪＡうご新成園芸組合の“ひばり野ふくたち”として商標登録されています。ひばりの地区では、現在は14戸の農家が合わせて約4,200坪（1.4ha）のハウスで栽培しています。

また、最近では近隣の貝沢集落の“貝沢ふくだち菜”のように「道の駅 端縫いの郷」の産直コーナーなどでの直売も見られるようになりました。



まもなく出荷の「ふくたち」（2月12日）



商標“ひばり野ふくたち”

3. 「ふくたち」の食べ方

「ふくたち」の旬は3月から4月の春です。

他の菜っ葉野菜類と同じ調理方法で美味しく食べられます。多くの葉物野菜では軸（芯）を取り除くことが一般的ですが、「ふくたち」はこの軸の部分に甘みが多くて食感もいいので、この部分を捨ててはいけません。

下茹でしたものを胡麻和えやお浸しなどの和え物にすることが多いとのこと。また、みそ汁の具のほか、炒め物や肉巻きにしても美味しいです。

インターネットで検索すると様々なレシピが公開されていますので、詳しくはそちらをご覧ください。



ふくたちd e カルパッチョ



ふくたちの肉巻き

※ＪＡうごでは、ただいまご購入予約受付中です。詳しくは、ＪＡうごホームページをご覧ください。

問い合わせ先 ＪＡうご営農販売課 ☎0183（62）5827



～令和3年産の稲づくりの作業がまもなくスタート～

水稻種子予措のポイント

今年の冬は、記録的な大雪となり、特に横手市では昭和54年に統計を始めて以来最大となる203cmの積雪量となりました。このことにより、各地域で園芸・育苗ハウスの倒壊などの被害が発生し、春作業の遅れなどが懸念されます。種子予措を行うこの時期の気温はまだ低く、このような低温下では種子消毒剤の効果の低下や、休眠が深まり出芽が遅れることがありますので、以下のとおり十分に注意してください。

また、令和2年産種子は、登熟中・後期にあたる8月19日から9月9日の期間に、平年に比べ日平均気温がかなり高く、**異常高温の中で登熟が進み**ました。このことにより、**種もみは休眠が強く**なっていますので、浸種は長めに行い、水温に十分に注意してください。また、**催芽は時間がかかる可能性があります**ので注意してください。

種子予措は、健全で充実した種子を選別することから始まります

◆塩水選◆

塩水選（比重選）で軽い種子を除くことにより発芽が揃い、その後の生育も優れます。塩水選は、食塩または硫酸で正確な比重液（**うるち米は1.13、もち米は1.08**）で行ってください。

ただし、種子消毒剤吹き付け・塗抹済み種子は消毒剤が溶出するので塩水選は行わないでください。

◆種子消毒◆

種子消毒は種子伝染性の苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、褐条病、ばか苗病、いもち病などを対象に行います。

また、無消毒種子を購入した場合は、種子伝染性病害の発生等を防ぐため、必ず「テクリードCフロアブル」等の薬剤で種子消毒を行ってください。温湯消毒を行う場合は、専用の処理装置を用いてください。温湯消毒は生物農薬「タフブロック」等と組み合わせると、防除効果が向上します。特に種子伝染性病害（ばか苗病等）を防ぐため、自家採種は行わず、**採種ほ産種子を使用**してください。

◆浸種◆

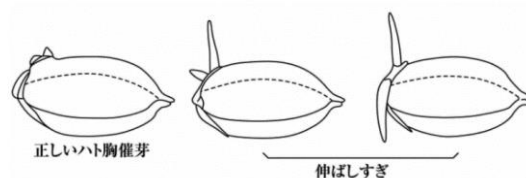
種子の発芽を揃えるために、発芽に必要な水分を吸収させるとともに種子に含まれる発芽阻害物質を溶出させ取り除く作業です。**浸種の適水温は10～15℃**で、10℃以下の低温で浸種すると、休眠が逆に深まる場合があります。一方で、14℃で8日間以上浸種すると浸種期間中に発芽が開始することがあるので注意してください。また、種子消毒剤の効果を高めるためにも、**浸種温度は10℃以下**にならないように気をつけてください。浸種に使う容器は、種子量に対し大きめのものを使用してください。**種子1kgに対し水3.5リットルが目安**で、底の浅い平底型の容器の方が温度ムラは少なくなります。発芽に必要な吸水量は、乾籾重の25%前後であり、**浸種期間は水温10℃で6～**

8日、14℃では6日間程度とします。

種子消毒剤の効果を高めるため、**浸種期間中の水交換は2～3回**とします。浸種終了の目安は、**糊殻を透かして胚が白く見えるようになった頃**です。

◆催芽◆

催芽は、発芽の種子間差を小さくし、**均一に発芽させるために30～32℃**で行ってください。あらかじめ**36～40℃の温度で湯通し**を行い、**種子袋の内部まで温度が均一**になるようにしてください。催芽中は水分を切らさないようにし、**芽の長さはハト胸程度**とします。発芽速度は品種によって異なり、同一品種の種子であっても年により休眠性に差があるため発芽速度が異なります。また、催芽作業の時期によっても異なりますので、発芽程度（芽の長さと芽切れの揃い）を十分観察して催芽を終了してください。



近年「もみ枯細菌病」が散見されていますので、注意してください！

◆出芽温度は**32℃を超えない**ようにし、**被覆期間を過剰に長くしない**ようにしてください。また、**出芽後の再被覆は行わない**でください。

◆緑化期以降は**25℃以上にならない**ように注意してください。



ＪＡ農業機械担当者を表彰

～農家訪問活動を積極的に展開～

秋田県ＪＡ農機技術指導員委員会（事務局：ＪＡ全農あきた）は、農家訪問活動を積極的に行うことで組合員との絆を深め、優れた成果を収めたＪＡ農機担当者を毎年表彰しています。

今年度の製品成約受注部門の最優秀賞は、ＪＡ秋田やまもとの藤田浩さん（３連覇）、修理整備料金部門の最優秀賞にはＪＡ秋田おばこの小松弦矢さん（３連覇）が輝きました。



【製品成約受注部門：最優秀賞】

ＪＡ秋田やまもと：藤田 浩さん



【修理整備料金部門：最優秀賞】

ＪＡ秋田おばこ：小松 弦矢さん

各メーカー表彰や県本部表彰、農技委員会表彰など、延べ５１人と２ＪＡを表彰したほか、今年度が最終年となった「大型共同購入トラクター」の３か年受注計画目標を達成した７ＪＡに計画達成ＪＡ賞を贈りました。また、今年度末に退職される１２人の担当者に長年の功績を称え「功労賞」を、今年度から農機担当者となった新人職員には「新人賞」を贈りました。

この表彰は例年、「ＪＡ農業機械パワーアップ運動成果発表大会」と題し、表彰者をはじめ関係者が一堂に会してその栄誉を称えていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を見合わせ、各ＪＡ単位で表彰を行いました。今後もＪＡ農機担当者と連携し積極的に出向き、よりニーズにあった提案ができるよう取り組みをすすめていきます。

今冬の雪害からの復旧に向けて

この冬秋田県内は令和2年12月中旬以降、断続的な降雪に見舞われました。特に、県南部での積雪量が多く、横手市では2月5日に最大積雪深が203cmとなり、地域気象観測システム（アメダス）による観測が始まった1979年以降で最大を更新しました。（「四八豪雪」の1974年は積雪259cmを記録）

今冬の大雪で住宅等の被害のみならず、雪下ろし中の事故などによる人的被害も多く発生しております。秋田県の調査によると、2月19日現在、農林関係の被害額は判明している範囲で約32億円に達しており、パイプハウスの倒壊などの農業生産施設等が大半を占めています。この後、雪解けが進むにつれて果樹の枝折れなどの被害額が明らかになることから、さらに被害額が膨らむことが懸念されます。

秋田県では、樹園地の除雪など被害の軽減に向けた取り組みを支援するとともに、被害を受けた樹体やパイプハウスなどの復旧等を支援し、被災した農業者の経営と産地の再建を図るための予算を2月議会で計上しています。

また、国においても「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」や「持続的生産強化対策事業」等で大雪による被災農林漁業者への支援策を講ずることとしています。

さらに、JAグループにおいては、資材の調達等についてメーカーと連携を図っているほか、令和3年産水稻作にかかる苗不足が生じないよう各JAと調整を行っています。

【秋田県の支援策】

美の国あきたネット（<https://www.pref.akita.lg.jp/>）の「緊急情報・重要なお知らせ」の「【大雪】被災した農業者等への支援について」

【国の支援策】

農林水産省ホームページ（<https://www.maff.go.jp/>）の「注目情報」の「今期の大雪に係る支援対策について」

【農林中央金庫（JAバンク）の支援策】

農林中央金庫（<https://www.nochubank.or.jp/>）の「ニュースリリース一覧を見る」の「令和3年1月7日から大雪による災害に対する金融上の措置について」及び「令和3年1月7日から大雪による災害により被害にあわれた皆さまに対するJAバンクにおける相談対応等について」をご覧ください。

ご不明な点があれば、最寄りのJA、市役所・町村役場、地域振興局農業振興普及課等へお問い合わせください。

育苗期のいもち病防除

育苗期のいもち病の感染を防ぐ耕種的な防除対策

稲わら・もみがらを水稲育苗施設内や 周辺に置かないでください!

「乾燥状態で冬を越した稲わら・もみがら」には、いもち病菌が付着しており、そのいもち病菌が苗に移ることによっていもちの発生を助長します。種子消毒や育苗期防除とあわせて、耕種的防除も徹底してください。



もみがら



育苗期間中に育苗施設周辺に使わない



稲わら

水稲の育苗施設内及び周辺でのもみがらの放置や使用(左、中)稲わらの保管(右)は危険です。

冬期間に屋外で濡れた稲わら・もみがらのいもち病菌は死滅します。

不要な稲わら・もみがらは、秋～冬の間に(田や畑など)に広げて濡らし、いもち病の伝染源を断ちましょう。

不明な点は最寄りの指導機関に相談してください

育苗期のいもち病防除を必ず行いましょう!

いもち病対策は育苗期の防除が重要です。

- ・田んぼのいもち病は、苗にいもち病が発生し、それに気づかず田植えすることで発生します。
- ・育苗期のいもち病防除は、田んぼでの発病を防ぐ第一歩ですから必ず行いましょう。育苗箱施用剤では育苗期に発生するいもち病を防ぐことはできません。



いもち病激発ほ場(8月上旬) 穂いもち被害

育苗期いもち病防除の手順

種子消毒

育苗期いもち病防除

次のいずれかを選択

ペンレート水和剤

500倍 500ml/箱
又は 1,000倍 1,000ml/箱
灌注
播種時～播種7日後頃



50リットルの水に、ペンレート水和剤100g・1袋で、育苗箱100枚分ができます。(500倍の場合)



育苗期いもち防除 灌注処理の様子

ビームゾル

500倍 500ml/箱
灌注
緑化始期
(べた張り除去後速やかに)



250リットルの水に、ビームゾル500ml・1本で、育苗箱500枚分ができます。



緑化始期：べた張り除去の様子

本田葉いもち防除

(育苗箱施用剤、側条施用、水面施用剤のいずれかで必ず行う。)

〈注意事項〉

- ビームゾルでは、低温時や極端な高温時(30℃以上)に葉害が生じることがあります。適温管理に努め、健苗育成をこころがけましょう。
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。●防除日誌を記録しましょう。

編集：秋田県病害虫防除所・秋田県農業試験場

発行：秋田県植物防疫協会・秋田県産米改良協会

令和3年1月

JAグループがおすすめする **ドローン** 散布対応 水稻除草剤

**JAグループが
おすすめする**



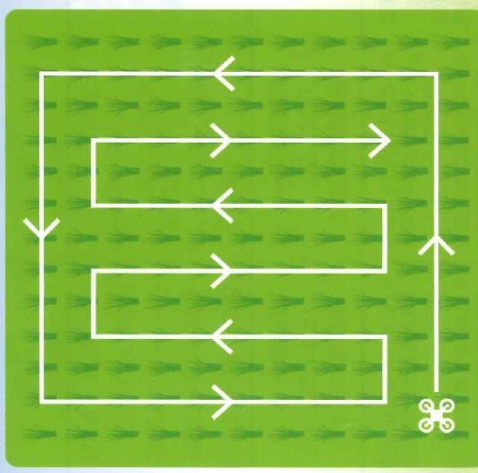
ドローン 散布対応 水稻除草剤

1kg回粒剤

10kg/ha

初期 - 発 剤					
品目名	カチボシ 1キロ粒剤75	ベンケイ 1キロ粒剤	アツパレZ 1キロ粒剤	シグナス 1キロ粒剤	カウントダウン 1キロ粒剤
商品形態					
有効成分	イプフェンカルバゾン 2.5% テフルトリオン 2.0% ベンスルフロンメチル 0.75%	ビリミスルファン 0.5% フェノキサスルホン 2.0% ペンバシクロン 3.0%	ピラクロニル 2.0% プロピスルフロロン 0.9% プロモブチド 9.0%	テフルトリオン 2.0% フェントラザミド 3.0% メタスルフロロン 0.6%	フェントラザミド 3.0% フェンキノトリオン 3.0% トリアファモン 0.5%
使用時期	移植直後～ ノビエ2.5L、 移植後30日まで	移植直後～ ノビエ3.0L、 移植後30日まで	移植直後～ ノビエ3.0L、 移植後30日まで	移植直後～ ノビエ3.0L、 移植後30日まで	移植直後～ ノビエ3.5L、 移植後30日まで
特 徴	◆イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑える。 ◆SU抵抗性雑草に高い効果を示す。 ◆多年生雑草に効果を示す。	◆フェノキサスルホンがノビエおよび一年生広葉雑草に長期間効果を示す。 ◆高性能な3成分の切中剤で、難防除雑草を含む広範囲の雑草に高い効果を示す。 ◆ペンバシクロン配合により、抵抗性のホタルイに卓効を示し、イボクサ等の畦畔からの侵入雑草を抑制する。	◆ノビエ(3葉期)をはじめ、様々な雑草に早く効果を発揮する。 ◆多年生雑草に高い効果を示し、長期間抑制することが可能。 ◆SU抵抗性雑草(ホタルイ、コナギ、オモダカ)に優れた効果を示す。	◆メタスルフロロンがホタルイ及び多年生雑草に高い効果を示す。 ◆増殖形成を抑制し、翌年の再生要因を減らすことが可能。 ◆SU抵抗性雑草にも高い効果を示す。	◆高葉期のノビエに対しても高い効果を示す。 ◆難防除雑草のオモダカに対して、翌年形成を抑制し、翌年の密度減少が期待できる。 ◆SU抵抗性雑草(ホタルイ、コナギ等)にも高い効果を示す。 ◆畦畔からの侵入雑草(イボクサ)も抑制する。

【飛行ルート例】



飛行時間(約) 10分

バッテリーの消耗が少なくより多くの圃場を散布可能!!

豆つぶ剤 2.5kg/ha

FG剤 4kg/ha

【飛行ルート例】

飛行時間 (約) 5分

- **豆つぶ剤、FG剤**は拡散性に優れ、飛行時間を短縮 (バッテリーの消耗を減らすことができる)
- 薬剤吐出は全開
- 可能な限り圃場の均平、水位の確保 (最浅5cm以上)
- 豆つぶ剤、FG剤の散布が分らない場合、JAに散布方法を確認して下さい。

品目名	初 中 期 - 発 剤		初 中 期 - 発 剤	
	ベンケイ 豆つぶ250	ベツカク 豆つぶ250	アツパレZ 400FG	バツチリX 400FG
商品形態				
有効成分	ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 8.0% ベンゾビシクロン 12.0%	ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノリオン 12.0%	ピラクロニル 5.0% プロピリスルフロ 2.25% プロモブチド 22.5%	ピラクロニル 5.0% オキサジクロメホン 0.75% イマノスルフロ 2.25% プロモブチド 22.5%
使用時期	移植後3日～ノビエ3.0L、移植後30日まで	移植後3日～ノビエ3.0L、移植後30日まで	移植後3日～ノビエ3.0L、移植後30日まで	移植後～ノビエ2.5L、移植後30日まで
特 徴	◆ フェノキサスルホンがノビエおよび一年生広葉雑草に長期効果を発揮する。 ◆ 高性能な3成分の初中期一発剤で、難防除雑草を含む圃場の雑草に高い効果を発揮する。 ◆ ベンゾビシクロン配合により、抵抗性のホタルイ、卓効を示し、イボクサ等の畦畔からの侵入雑草を抑制する。	◆ 高葉節のノビエ(3葉期)まで防除可能。 ◆ フェンキノリオンがホタルイに安定した効果を発揮する。 ◆ SU抵抗性オモダカにも高い効果がある。 ◆ 10a当たり250gとドローンに精微するにも軽重で省力的。	◆ ノビエ(3葉期)をはじめ、様々な雑草に素早く効果を発揮する。 ◆ 多年生雑草に高い効果を発揮し、長期抑制することが可能。 ◆ SU抵抗性雑草(ホタルイ、コナギ、オモダカ)に優れた効果を示す。	◆ ノビエ(2.5葉期)に安定した効果と長期残効性を持つ。 ◆ SU抵抗性雑草および、多年生難防除雑草まで幅広く優れた効果を示す。 ◆ 効果の発現が非常に速い特性がある。 ◆ 温度による効果変動が少ない。 ◆ 移植直後処理も可能。